

加古川市 鮮やか逆転

女子、4年連続

最終区 51秒差からV

女子で堂々の4連覇を飾った加古川市の中でも、鮮やかに逆転劇を生んだアンカー後藤(西脇工高)の走りは圧巻だった。たすきを受けた時点で51秒あったトップとの差を見守る縮め、さらに秒差をついてフライング後藤は予想以上に差が開いて、

たすきを受けた時点で51秒あったトップとの差を見守る縮め、さらに秒差をついてフライング後藤は予想以上に差が開いて、



4連覇を達成し、指を突き上げてゴールテープを切る女子・加古川市のアンカー後藤夢(撮影・風斗雅博)

たすきを受けた時点で51秒あったトップとの差を見守る縮め、さらに秒差をついてフライング後藤は予想以上に差が開いて、

たすきを受けた時点で51秒あったトップとの差を見守る縮め、さらに秒差をついてフライング後藤は予想以上に差が開いて、

姫路市 悔しき残る2位

全選手区間上位、逃げ切れず



女子・姫路市の3区福永愛佳(右)からたすきを受けて走りだす4区沼沼美月(撮影・風斗雅博)

女子の姫路市は残り1.5分付近かわされて2位となり、4年ぶりの優勝は夢と消えた。アンカー竹川(姫路市陸協)は「1秒差を逃げ切った4年前のイメージで走ったが、力不足だった」と肩を落とした。ただ、全国都道府県対抗駅伝優勝メンバーの榎本知(須磨学園高)が1区区間賞を奪うなど、先行逃げ切りの展開は持ち込んだことには手応えもある。3区区間賞の福永(姫路市中)は「いい流れのおかげで力を蓄えて走れた」とうなずいた。

一昨年から3、2位と着実に順位を上げており、「もっと上(優勝)を目指したい」と福永。過去3度の優勝を誇る強豪は、貪欲に女王奪回だけを見据える。(高橋真彦)

女子2部優勝=洲本市2区・中西希(神院大=2部区間賞で優勝と総合11位に貢献)「前回の総合15位より上位に入れてうれしい。1区の本條(四国学院大香川西高)からいい流れをつくってくれた。洲本市の人たちに結果で恩返しできた」

女子3部優勝=加西市5区・上坂梨子(北条高=4人抜き好走で2部昇格を引き寄せる)「大好きな地元で貢献できたのが何よりうれしい」

最後の向かい風は厳しかったけど、サポートで沿道から聞こえる仲間の声力がくれた」

女子4部優勝=宝塚市2区・佐部利胡未(武庫川女大=総合9位で1部昇格)「東西宮高時代から参加していて、今年は中高生から大学生まで最もメンバーが充実していた。全員で駅伝を楽しめた。来年から1部で走れるのがうれしい」